

令和4年度平取町総合教育会議 議事録

開催日時：令和4年7月29日（月）13時30分～15時15分

開催場所：平取町役場 2階 会議室

出席者：町長 遠藤 桂 一
副町長 佐藤 和三
教育長 庄野 剛
教育委員 本間 稔 浩
教育委員 堀内 敏 明
教育委員 小林 明 美
教育委員 堀内 敏 明

津川総務課長	これから、令和4年度第1回総合教育会議を開催いたしますけれども、開催前にお願いがあります。議事録を作成いたしますので、お手元のマイクのボタンを押してから、ご発言頂けますよう、よろしくお願いいたします。
津川総務課長	■1.開会 それでは只今より、令和4年度第1回平取町総合教育会議を開催いたします。初めに、遠藤町長からご挨拶申し上げます。
遠藤町長	■2.挨拶 皆さん、こんにちは。令和4年度第1回目でございますけれども、総合教育会議、開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。皆さん、今日何かとお忙しい中、また暑い中、ご参集賜りまして、誠にありがとうございます。日頃より、町行政、教育行政推進のために、何かとご尽力を賜りまして、御礼申し上げたいと存じます。新型コロナの関係でありますけれども、やはり第7波ということございまして、感染者は、現在のところ増える一方というような状況になっておりまして、日高管内、平取町でも、断続的に陽性者が出ているということでございまして、重症化は少ないとはいえですね、数が増えますと、そういうことも心配せざるを得ないというのがございまして、学校の方は夏休みというようなこともありますけれども、引き続き、感染防止対策等の喚起について、我々としても、まだまだ継続が必要かなというふうに、感じてございます。今日の議題でございますけれども、恒例の議題もございまして、当町の方からも、現在の行政課題等について、お知らせをさせて頂きたいと思っております、その一つに保育所の今後といいますか、方向性も、やっぱり少子化に伴って考えざるを得ないというような時期にきておりましてですね、人口減少による、私どもの対応を根本的に変え

<p>津川課長 庄野教育長</p>	<p>ていかなきゃならない時に、本当に来ているんだなということを最近、ひしひしと、感じておりました、しょうがないとは言いませんけども、やっぱり、減っていくもの歯止めっていうのは、中々付け辛いところもありますので、そういう状況をとらえて、私どもとして、一番良い方策といたしますか、施策をどうやっていくかというのが、これは当たり前のことですけども、より重要性を増しているかなというふうに思っていますので、今日もいろいろと委員の皆様方からご意見等賜りながら、今日議題にあること以外にも、何かお気づきのものがあれば、是非、出していただきまして、議論、していければなというふうに思っていますので、それをお願いして簡単ですけども、ご挨拶に代えさせていただきます。本日も宜しくお願い致します。</p> <p>続きまして、庄野教育長からご挨拶をお願いいたします。</p> <p>令和4年度の第1回、総合教育会議開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は大変多忙の中、町長・副町長出席のもと、総合教育会議の開催、大変ありがとうございます。また日頃より、教育行政の推進、及び当町の教育課題解決に対して、事業の実施、予算措置など、非常に厳しい財政状況の中で、特段のご配慮、ご理解とご配慮いただき、教育委員会として厚く御礼申し上げます。今回の総合教育会議につきましては、町長・副町長とも、平取町の教育行政の状況や課題につきましては、十分ご理解をいただいているというふうに思っております。教育委員の皆さんとの意見交換を含めて、意思疎通を一層図っていききたいというふうに考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。新型コロナウイルス感染症も、現在第7波ということで、数が増えてきているところでございます。今までとは違って国も、北海道も行動制限を取らないような姿勢ということで、それぞれの自治体での対応、対策が一層重要になるというふうに理解しております。教育活動につきましては感染防止対策をしっかりととりながら、できる限り実施をしていく考えでありますので、ご理解の方をよろしくお願ひしたいと思います。総合教育会議につきましては、教育委員会における権限と責任の明確化、あらゆる課題、問題に対する迅速な対応、住民意向に十分対応することができるよう、行政との意思疎通及び連携を密にとることを目的として開催されており、平取町における教育に関する課題や問題については先ほど言った通り、町長、副町長も十分理解していただいているというふうに思っております。教育委員会としての意向や方針についてのご理解をいただくとともに、町長、副町長から、行政の視点での意見や要請、住民要望について、聞かせていただけると大変有意義であるというふうに</p>
-----------------------	---

津川課長	<p>考えております。町行政として、忌憚のないご意見をいただければと考えますので、本日はよろしくお願ひいたします。以上教育委員会を代表しての御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひします。</p> <p>ありがとうございました。この後の議事進行につきましては、遠藤町長が議長となり会議を進めます。それでは、宜しくお願ひいたします。</p>
遠藤町長	<p>■ 3. 会議事項</p> <p>それではお手元の議事次第に従いまして、説明させていただきたいと思ひます。3 の会議事項、協議及び調整事項でございますけれども、①の当面する教育課題等についてということで、資料1に基づいて、まず説明をお願ひしたいと思ひます。</p>
庄野教育長	<p>それでは私の方からですね平取町の当面する教育課題につきまして、資料1に沿って説明をさせていただきます。中身によって職員の方から説明するというような形になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。まず1点目に、挨拶も出ておりましたコロナウイルス感染症に対応した教育活動の推進についてであります。挨拶でも話した通り、今年度も感染者の増減を繰り返しながら、変異株の出現などにより、現在第7波というような状況となっております。感染者数は過去最悪を記録している都道府県も多くなってきております。国は行動制限等をする事なく、専門家会議も開催せず、国民に丸投げと言っているような状況に見えるところであります。教育委員会としましては、町の感染症対策本部会議で、この方針に基づき、マスクの、着用を、状況に応じた着脱ということで、今出てきております。またソーシャルディスタンスの確保、給食時や授業の内容による対策、部活動等における感染対策を、各学校において実施をしてきているところでございます。また子供たちのワクチン接種が、あまり進んでないというふう聞いておりますけれども、はっきりとした数については不明でございますけれども、後遺症など、将来にわたって不安のあることなどから、高い接種率には至ってないと考えるところであります。第6波、第7波では、子供たちの感染がかなり増えてきているというような状況でありまして、昨年からできる限り学校行事については実施をしてきております。今年度も入学式、体育大会、運動会、中体連の日高大会への参加などを行ってきているところであります。学校における行事等については、子供たちの心の成長や集団生活におけるルールや決まりごとを守るということ、最高学年においては、リーダーシップや自立心を育てるという点で影響が大きいということで、できる限り、行事や体験活動を行うよう指示しているところであります。また5月末から6月初めにかけて児童生徒及び学校関係者に感</p>

坂本指導主事

染者が出たということで、町の対策本部との協議、感染状況の見極め等を学校と連携しながら、学級閉鎖や出席停止などの措置を行ってきたところであります。その際には、当該学校においてタブレット型のパソコンの持ち帰りを行って、授業や連絡調整に活用してきているところがございます。今後も感染拡大に対応し、子供たちの学びの保障のためにも、このような対応をしていきたいというふうに考えております。以上、コロナ感染症に対応した教育活動の推進ということでございます。次に、2番目の学力向上対策であります。今年度は、全国学力学習状況調査については、4月19日に実施され平取町においても、全小中学校の6年生と中学校3年生が参加したところであります。また同日、町独自で行っております標準学力検査を、小学校2年生から中学校2年生まで実施したところであります。全校学テについては自校採点、CRTは結果が出てきておりますので、坂本指導主事より説明をさせていただきます。

2ページ目からの資料は、平取町の自校採点結果と日高管内の自校採点結果の比較です。今朝の新聞にも、報道されていましたが、まだ各学校それから、平取町の結果についてはおりにきておりません。8月に入ってからご覧になっていただいて、黒い数字の部分については、管内平均を上回っている設問赤数字が下回っている設問となっております。小学校、中学校とも国語では、知識及び技能はよくできておりますけれども、書くこと、表現力に課題があります。それから小学校の算数、中学校の数学ともデータの活用の領域は良くできていますけれども、変化と関係、それから割合については課題がある。小学校、中学校とも大体同様の傾向が、結果として現れています。5ページ目からの中学校の結果ですけれども、中学校の国語で言えば、1番目の問題以外がすべて管内平均を上回っている。それから、次の数学についても、二つの問題以外は管内平均を上回っている。理科についても、管内平均を大きく上回っているという結果になっています。それぞれ各学校で自校採点結果の分析をもとに、意図的に各活動授業時間に位置付けたり、補充時間で、課題克服のために取り組んでいるところです。以上です。あわせて標準学力テストでもよろしいでしょうか。同一小学校の2年生から5年、それから中学校1、2年生で、実施いたしました。小学校では、全体的な傾向で言えば、2、3、5年生に日頃の指導の成果が現れていますけれども、4年生に課題があると言えます。教科ごとに言えば、国語では、結果が現れていますけれども算数に課題があります。中学校は、受験教科平均で見ると、特に2年生で全教科全国平均を大きく上回っているという結果になっています。青い字が全国平均の5ポイント以上、赤い字がマイ

庄野教育長

ナス5ポイント以下という結果になっていますけれども、中学校2年生がかなり、大きく上回っています。資料の12ページをご覧ください。同一集団の経年変化ですけれども、小学校3年生は、やや上向きになっております。4年生は、ほぼ同程度、5年生が国語、算数とも下降しているというような結果になっています。中学校では、一年生は国語、数学ともほぼ同程度ですが、2年生については国語、数学が年々上昇しております。理科が下がっておりますけれども、これは昨年の成績がかなり高かった結果ということで、理科についても、全国平均は大きく上回っているという結果になっております。あくまでも、平取町の平均としての分析ですから、各校でそれぞれ、分母数が少ないために個人の結果としてとらえていかなければならないかなというふうに考えており、あわせて、指導ももちろん必要ですけれども、学習意欲をどう高めていくのかというようなことについても必要かと思えます。以上です。

次に、今日の朝の新聞に載っていた通りですね、北海道の状況としては、全科目で全国を下回っている。またほぼ同様というのも何教科かありますが、それもほぼ同様で下回っているという形になっております。速報で教育局の方から昨日、学校ごとの状況が町の方に届いておりまして、その中では、今までの傾向通りというような形にはなっておりますけれども、小学校がかなり高い数字が出ているというような形になっていて、今までは小学校の部分については北海道平均ですとか、日高管内平均を少し上回るとかそういうような形でしたけども、今回はですね、かなり上回ったような数字、小規模校についてはですね、子供たちが1人2人というところもあってですね、なかなか学校自体の数字は上がっていかないこともありますけれども、全体で見ると、かなりいい数字が出ているというふうに思っております。中学校についても同様に、かなり数字的には、良いいという形になってきております。次に平取義経塾の開設状況ということで、別添3の資料を見ていただきたいと思えます。義経塾につきましては、通年開設、5年目を迎えているということでございます。生徒の希望に合った指導をきめ細やかにしていくということでございますけれども、今年度7月19日現在で、中学生90名、高校生32名、合計122名が登録、受講しているような状況です。中学生の73%、高校生の74.4%が通塾しているというような状況になっております。高校の方が、生徒数がかなり少なくなりましたんですけども、今までは50%を少し超えるぐらいだったんですけども、今年度は、74.4%というような状況になっております。今後2学期に入って、受講生がもう少し増える状況が予想されるというようなこととござい

す。また昨年の5月より、振内支所2階で、振内教室を月2回、基本的には、土曜日に開設しておりまして、振内地区の中高校生、主に中学生ですけれども、通っているというような状況で、振内地区の生徒の中高校生の通塾環境の整備を進めているところであります。次に、3番目体力運動能力向上対策ということでございます。今年度全国体力運動能力、運動習慣等調査につきましては、小学校5年生と中学校2年生を対象に、6月から7月にかけて実施をしております。平取町では、合わせて小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒に、新体力テストを実施しているところでございます。全国的に見ても北海道の児童生徒の体力運動能力は低いという状況があります。平取町においても同じ傾向にあるものと認識をしています。各学校においては、コロナの影響によって、なかなか運動の部分では厳しい状況ではありましたが、積極的に運動の習慣化を進めるために取り組みを各学校で行ってきている状況です。学テと同様に、調査結果を各学校において分析し、課題を明確にしなが、体力づくりに取り組むよう学校長に対して指導しているところでございますので、ご理解の方をよろしくお願いします。ちなみに令和3年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査結果でありますけれども、平取町の小学校5年生では握力、反復横跳び、ボール投げの種目で全国全道平均を上回っておりますけれども、上体起こし、長座体前屈といった柔軟性で下回るような数字が出ております。それ以外の種目では、ほぼ同様というような形になっております。中学生では握力、立ち幅跳びで全国とほぼ同様、それ以外は下回るというような状況でございます。特に50メートル走でかなり大きく下回っているという状況になっております。その年度の該当児童生徒により、かなり差が出るということもありますけれども、各学校における積極的な運動の習慣化、を進めるために取り組みを一層進めていくことが必要と考えております。教育委員会としましては児童生徒それぞれの経年変化を踏まえた上で、望ましい生活習慣の確立、体力向上への取り組みについてですね、各学校が主体性を持って実施し、その環境づくりに努めて参りたいと思っております。生きていくために、体力は重要なものであり、すべての活動の基本となるものでありますので、子供たちの体力づくりににつきましては、今後も学校保護者、関係機関、スポーツ団体などとも連携をとりながら、推進していきたいというふうに思っております。ちなみに、体力運動能力と学力の関係は比例してきているんですね。道内でも、体力運動能力の数値が、全国レベルで上の方にいっている地区については、学力の方についても、一定程度高いのが出ているというのが出ておりますし、

学習する前に軽い運動をしてから、学習をすると効果があるということも言われております。そういう意味でも、生きていくための体力も十分必要ですし、学力と合わせた意味でも、運動能力を上げていくことが重要というふうに考えております。

続いて4点目になります。学校規模適正化についてでございます。昨年度の2回目の総合教育会議にも資料を出して、説明いたしましたけれども、平取町の児童生徒は減少を続けているところであり、小規模校の維持が難しくなっている状況であります。1番目に、振内中学校と平取中学校の統合問題についてでありますけれども、令和6年度に振内中学校で、1・2年生が複式学級となることが予想されることから、5月から6月にかけて、保護者アンケートを実施し、これは振内小学校、振内中学校の保護者の方にアンケートを、実施しております。その結果が、資料の方に出ているということで、別添4の方に、数値の状況になっております。振内中学校の、今の生徒が令和6年ということになりますと、ちょうど今の1年生が3年生になる時期ということになります。振内小学校の5・6年生が中学校の2年生、1年生になるべき時期に、複式が予想されていることもありまして、教育委員会としましては、子供たちの、学習環境や学校行事、また部活などの関係からですね、統合を進めていきたいというふうに考えているところであり、7月14日には、振内中学校のPTA、保護者の方に説明をしているところでもあります。先ほど配った学校統合となった場合の町の対応についてという、A4の両面の資料があるんですけども、これにつきましては、振内小学校の保護者からも、アンケートをとりまして、中学校はそのあと、説明に行っておりますけれども、振内小学校の方は説明に行っていないこともありまして、この資料（アンケート結果）を保護者に配っているというような状況であります。アンケートの中で、統合になった場合、どのような形になるのかわからない状況では、なかなか判断できないという意見もあったということもあって、教育委員会として、平取町として対応を貫気別中学校を例にしながら、このような形に万が一なった場合には、こういう対応をしていくというようなことで、出しているところでございます。今後、8月18日木曜日に、地域説明会を開催ということで、来週のまちだよりに載せることとしております。その際に、こういった状況で統合を検討しているか、また、統合となった場合について、一番保護者が心配しているのは足の問題です。登校、通学、また部活の際の部分がありますので、そういった点も説明しながら、説明会を行っていきたいと考えています。その中で地域からの質問ですとか、いろんな意見が多分出

	<p> と思いますので、それを受けながらというふうに、その場で回答できる部分については回答していきますし、持ち帰る部分については持ち帰って、理事者の方とも協議をしながら対応していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。8月18日7時半から、振内町民センターの方で実施をする予定でおります。2番目の町内各小学校、児童数の将来推計ということで、これも昨年の12月に出版している資料とほとんど同じですけれども、ご存知の通り、小学校の児童数もかなり少なくなっていくということもあって、今後は、統合等もやはり適時考えていかないと駄目な部分じゃないかなというふうに思っているところです。欠学が出てきたりするのは、学年で児童がいないという学年がでできますし、1人ですとか2人っていう部分も出てくるので、今、主体的対話的というような形で、アクティブラーニングということをおっしゃっていただき、他人の意見も聞きながら自分の意見も、述べていくっていうような形になっております。そういう意味でも、ある程度の数の児童、また中学校においては生徒数が必要かなというふうには考えておりますけれども、学校統合に関しては、地域もかなり難しいということもあって、慎重に取り組んでいくことが重要かなというふうに思っているところでございます。以上です。 </p>
<p>遠藤町長</p>	<p> それでは今、資料1の4までですね、教育長の方から説明を頂きましたけれども、内容等について、関連することについてありましたら、お受けしたいと思います。 </p>
<p>遠藤町長</p>	<p> それでは、私の方から。こういう全国学力、学習状況調査ということをやりますけれども、それぞれ、例えば町別とか学校別とかで結果が出る中で、やっぱり、先ほど説明がありましたけれども、この分野とか、ここが弱いみたいな結果が出たときに、それは今後、例えば授業とか学校の現場の中で、この辺はちょっと強化が必要かなとか、対応はするのですか？ </p>
<p>庄野教育長</p>	<p> 自校採点ですとか全国の状況、結果が出てきて、各学校、町の状況とかも来ます。その際に、小規模校においては、個人それぞれの状況が出てくるということもあるので、それに沿って、良いところは伸ばす、苦手なところは、少しずつ補っていただくかそういう部分において、学テ始まった当初は、なかなか難しい部分があったんですけども、先生方の押さえ自体も、これで全部が決まるわけじゃないですとか、そういう部分もあったっていうこともありますけれども、今、10年を過ぎるような形で実施をしてきているということで、結果について、それがすべてではないですけども、子ども達一人一人の状況を見て、対応するような形のもの </p>

<p>坂本指導主事</p>	<p>のに、使っていただきたいということで、校長会、教頭会でもお話をしているところがございます。</p> <p>それぞれの学校で、結果分析等を行っていますので、それに基づいて、授業の中でどういう取り組みをしていこうということについて、それぞれの学校で話し合われて取り組みがされていると思います。先ほど、国語では書くことそれから算数、数学では割合関数が弱いというふうに、課題があるということでお伝えしましたが、これは平取町だけじゃなくて、全国的な傾向というふうになっておりますので、特に授業の中では、意図的に各活動を位置付けて、授業が行われています。</p>
<p>庄野教育長</p>	<p>そういうような状況です。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>分かりました。なんか他にありませんか？</p>
<p>津川総務課長</p>	<p>タブレットを入れて、大分活用しているかなと思うのですが、今年あたり夏休みだとか、そういう時に持ち帰らして、やっているのかどうかってのは、どういう状況なのですかね。</p>
<p>庄野教育長</p>	<p>今、持ち帰りのルールだとか、どういうような使い方をするっていうのを決めて、保護者の方にも通知をしながらということで、夏休みに、そういうのをやりたかったのですけれども、タブレットに不具合があって、一度全部回収して、NECの方で、不具合がないか全部チェックして戻すというような形になっているもので、夏休みの持ち帰りについては、行ってないという、今回はそういう状況になっています。ただ、先ほどのお話あった通り、コロナでの学級閉鎖だとか、出席停止になっている子供たちには持ち帰ってもらって、授業、または学校と繋がるっていう意味で、使っているっていう状況になっております。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>いいですか。例えば体力、運動能力向上で、北海道もそうなのですが、やっぱり冬場とかなんかそういう冬が厳しいとか、雪だとか、そういうのもあって、相対的な体力が、全国と比べると低いんだみたいな、ずっと以前から、こんな感じなのですが、専門的なスポーツをやるとか、そういうものは学校だとか違う機関で、その子供たちが鍛錬するような所もあるのですが、普通の暮らしの中で、もっと体を、ガッチガチに鍛えるというわけではないのだけれども、体を動かしやすい環境みたいなものって、最近よく言うのですが、何か皆さん、車で、学校まで送っちゃうみたいなことも聞きますし、緑のおばさんたちが暇しているという感じもあるので、なんかそういうところから改善するというか、日々の暮らしの中で、もっと動けるような環境環境といいますか、教育委員会ばかり問題はないかもしれないですけど、なんか取り組んでいけないかなというふうに思うのですよね。</p>

庄野教育長

冬場のハンデっていうのはあつてないようなもので、冬季スポーツがやっぱり北海道では盛んなので、強くなるっていう部分もあるので、一概には言えないのですけれども、やっぱり外で遊ぶだとか、遊びを含めたそういう運動だとかっていうのは少なくなっている。コロナで一層少なくなってきたっていう状況があるというふうに思っております。当然、学年によって、結構な差があるのですよね。学年によっては、ほとんどの子供たちが少年団活動やっていたりだとか、運動能力も非常に高いっていう年もありますし、その反動で次の年は非常に低くなっていたりだとかっていう部分があるので、なかなか一概にこういうケースでこういうふうになれば上がってくるっていう解決策が難しい部分ではあるのですけれども、学校においても、今、休み時間が本当に10分間ある休み時間もあれば、5分間だとかそういう時間もあるんですよ。給食終わった後も、あんまり長い時間、なかったりだとか学校によってあるので、そういう部分もあつて、昔のように、ご飯食べたら一目散に外に行って遊ぶっていう状況が、なかなか難しいところもあつたりするっていうことです。あとは、今日の新聞にも出ていましたけども、やはりゲームですとか、スマートフォンだとかパソコンの関係で、そういうものを使っている時間が、かなり他の地区よりも、北海道は時間が長いっていう部分があつたり、家庭学習の時間が非常に短いという調査が出ていたり、新聞を読む生徒が少ないだとか、読書する時間が少ないっていうような状況でできているということで、各学校とも朝読書だとか、本を読む機会だとか、ボランティアサークルの読み聞かせが行って、対応したりだとかっていうことをしておりますので、徐々に改善という形にはなってきているかなとは思っておりますけども、まだまだという状況がちょっとあります。

本間教育委員

運動能力の話なのですけども、前にも我々の委員会の中でお話したことあるのですけど、スクールバスは、学校の手前で止めて歩かせたらどうだっていう、そんな間に熊が出てきたり、何か事故にでも巻き込まれたらどうするっていう心配。特に、教育長が言われたように、外遊びする子供が少なくなりましたよね。前にも言ったことありますが、学校で朝8時の登校なったときに、8時10分ぐらいの間に、昔は、ラジオ体操で必ずやっていたのですよね。それが当たり前の時代を、私たちは過ごさせてもらったので、それができないものかなって思うのですよね。ある親しかった校長先生に聞いたことがあつたが、「今はできないよ。」と言われた。とにかくそう言った答えで、体を動かす、外遊びをする、グラウンドがあるのに、ソフトボールをしようやとかっていうことも、なく

	<p>なってきたので、ただ、社会体育もそうですけど、例えば有名な選手が出た常呂町の小学校だったら、カーリングやったりしている子ども達が多いのですよね。そういった、有名選手が出たとなると、野球にしる、バドミントンにしる結構盛んになる。特に貫気別は何もないので、バドミントンが多いのですが、この間ちょっと耳にしたのは、水泳とバドミントンやったら、大谷翔平みたくなるのだっていう話を聞いて、基礎体力っていうか、子供たちはそういった情報もどンドン社会体育からか何かからかリンクしてね、何かこうやろうやっというのを、このコロナが落ち着いたら、いろいろ考えてやって、いけばいいかなっていうのは思いますけどね。お父さんと、キャッチボールをしなくなりましたよね。</p>
遠藤町長	<p>ゲームやる方が多い。</p> <p>私の年代は、お父さんとどうこうってのは、なかったかな。逆に子供同士でやっていたかな。</p>
本間教育委員	<p>必ず集まったら2チームぐらいできて、やっていたけどね。今は子供も少ないからあれなのですけど。何かあったらっていうのは思いますよね。我々もちょっと心配だし、何かあったらって言われたら、返す言葉もないし。熊が出たぞって言われたら、もう、ただ、歩いて通学する方もいるので、一概にとは言えないのですが、そういったところから少しずつ全部やればなあと思う。校長先生、教頭先生が意識変えてくれば、少し学校は変わってくるのかなあと思いますけど。</p>
遠藤町長	<p>何か今の部分でありますか。</p>
和田教育委員	<p>先日、27日だったのですが、教会の方で、その息子がいつもでしたらお泊まり会で80人ぐらい集まってやるのですが、コロナの関係で日帰りの少年会というのをやったのですよね。お父さん、お母さん方も来られて、いろんな話になって、うちの息子が言うには、やっぱり何が困ってますかっていう話をすると、先ほど教育長がおっしゃったように、やっぱり子供が家に帰ってきたら、家庭学習をせず、ゲームをする時間が非常に長い間ということ聞いた。YouTubeもそうですし、非常に長くて困っている。やっぱり家庭のルールっていうか、そういうのを作らなきゃいけないのですね。でも、なかなかそれは難しいのですよっていう話の堂々巡りで、いろんな家庭が、そういうことで悩んでいる。一つの提案として、今日の北海道新聞にも載っていましたが、やはり調べ学習っていう子供さんがそういうのを動画見ている時にでも、家族がやはり一緒になって、その動画を見るのも一つですし、またもう一つ、その動画を介して、いろんな疑問点、例えば、言葉であったり、</p>

	<p>そこをちょっと調べてみようかということで、それをもとに、調べ学習につなげていく。動画を視聴している時間を調べ学習の時間に移行できる。それが一つのポイントになるのかなってというような話もしていて、お父さん、お母さんも、「なるほど、ちょっとやってみます」っていうことでお帰りになったということが、教育長もおっしゃっていましたが、やっぱりそういう子供さんたちのゲームであったり、YouTube だったり長い時間を、そういう今度は調べ学習に変えるような、施策というのを家庭でやって貰えたらと思う。学校でなんぼ、家庭学習の宿題出しても、家に帰ってやらないっていう子が多いので、やはり家庭の協力っていうのも必要ではないかなってということも話していました。以上です。</p>
遠藤町長	<p>いや、本当に、ゲームならもう、いつまで経ってもやっているぐらいになっているのだよね。</p>
堀内教育委員	<p>非常に和田さんの良い話の後にあれなのですが、私たちの子どもの時っていうのは、何が大きく変わっているのかなと思うと、凄いな、色々な事が制約されているのですよね。山に行ってはいけない。川に遊んではいけない。うんていは無くなって、シーソーも無くなって、回旋塔も無くなって。子供たちの遊ぶ場所が、どんどんどんどん削がれているというのが現状だと思うのですよね。そういう部分では、今、子ども達は可哀そうだなという気がしますよね。やっぱり私たちの時代っていうのは、川や山というのは、一番の遊び場所で、多分すごい体力の育成にも、貢献していたと思うのですよね。そういう部分では、どこまでが、本当に安全な遊具なのか、危険があるかという見極めっていうのが、一律ではなく、きちっと見極めて、残せるものは残してあげていった方がいいのかなと思います。子供たちの体力でない老人たちの体力は、私、ラジオ体操やっていて非常に良く分かるのですが、子どもたちも来ており、やっぱり、来ている子たちは、すごい活発な子たちが多いですね。だから、そういう多分自分の持っている時間の中で、メリハリをつけられるという部分で、体育をやっている子の学力高いっていうのも、そういうような部分がすごくあるような気がいたします。以上でございます。</p>
遠藤町長	<p>私も、ここ本当に何十年にもなりますけど、体調が悪い時以外はラジオ体操をやるのですよね。やっぱり、腰が痛いとか、そういうのもラジオ体操やらない日の方が、なんかちょっと悪いと感じる時がありまして、ちょっと聞いた話で、脳科学的に、さっき教育長も言っていましたけれど、運動した後の脳の活性化が凄いらしく、それも本当に運動と、脳の働きっていうのは、密接に関係しているのかなと思うのですよね。</p>
堀内教育委員	<p>時間の使い方を切替えていけば良いのですよね。</p>

遠藤町長	メリハリつけるっていうかね、そういうのが身につくのじゃないかと。ありがとうございました。他、いかがですか。
小林教育委員	今、いろいろお話出た中で、私も日々生活していて一番思うのが、平取小学校だと、本当に親が送っている。朝歩いて学校に来るだけでも、本当に違うと思うので、どういう理由で朝送ってきているのかなって知りたいと、常に思っていることなのです。やっぱり、今、言われたように、朝歩いて学校に来て、それから授業っていうのと、車で送ってもらって、それから授業っていうのでは、頭の活性化というか、その辺が違うのではと、常に思っている事です。あと、この間、プールのちょっとお手伝いに行ったのですが、そのあと子供たちですね、ブランコで、学校の横のプールの横のブランコで遊んでいる子が結構いて、やっぱり子供たちって何か遊具で、遊びたいんだなあっていうのが、学校に行ってみないと分からないんですけども、そういうのが見えて、やっぱり、身近にあって遊ぶものっていうのは必要なかなってちょっと思いました。
遠藤町長	今は遊具って殆どないの？
庄野教育長	学校には、ある程度はありますよね。鉄棒だとか。ブランコとかも、ある所はあると思うのですよね。
坂本指導主事	ジャングルジムですね。
堀内教育委員	昔の遊具の半分しかないですよ。
庄野教育長	結構やっぱり運動に、部活だとか、中体連の大会だとか目指している子は、運動しているのですよね。大多数は、あそこの家が自動車で送ってきているから、うちもという感じで、つられてみたいなのが結構あったりして、あとは雨がちょっと降ったらやっぱり、本当にもう学校の校門まで送っていくだとかそういうのがかなり。
佐藤副町長	本当は、子どもって雨の中を歩くのが好きだと思うのですがね。
本間教育委員	本当は好きだと思う。
遠藤町長	やっぱり、何かあったら困るみたいな感じなのかな？もうそこなのですよ。
本間教育委員	さっきも遊具の話も出ていますけれど、責任取りたくない人達の集まりなので、誰か子供が怪我したら、誰のせいってすぐに犯人探ししたりして、うちの息子の時代も前歯2本折ったりとかね、やったこともありますけど、自分が悪いのだからっていうことを、まず遊びの中でも、どうやったら危険か危険でないかというの、きちっと指導するなり、子供たちが自分たちで経験、体験する中で普通は覚えるものだと思うので、もう頭から先ほど言った山駄目、川駄目って、もちろん危ないと言えば危ないのだけど、1回流されてみたら分かるのだと思うのですが、

	<p>それは絶対駄目なことなので。だから、そういったこともプールで教えたりとか、あと、何かの機会にそういう水の事故に対する指導するとか、そういったことで、少しずつ危機を回避するっていうか、だから、先生方ももう少しね、学校にばかり任せるのは、ちょっと申し訳ないのだけど、家のお父さん、お母さんが川に連れて行って、さあ泳げっていう親は今いないですよ。海水浴に行っても、危ないから海へ入るなよとか、そんなスタイルで。どうして、こうなっちゃうのかなっていつも思うのですけれどね。学校も限界ありますから、しつけまでは、できないと思うし。</p>
遠藤町長	<p>学校と遊びの場っていうのは、別だったよね。子どもが一杯いたから、子供でも小さいのと大きいのといて、お兄ちゃん達、お姉ちゃん達で面倒を見ていて。</p>
本間教育委員	<p>そこで社会性を学ぶこともあったよね。先輩に向かって、お前なんて言えなかった時代だったので。だからそういったところで、上下の厳しさだとか、社会性だとかっていうのを習ったような気がするのだけど。</p>
遠藤町長	<p>我々の時代を美化しがちなのだけど、悪いこともあったのかっていうのもあるけども、もうちょっとそういうのはあっても、いいのかなと思う。</p>
本間教育委員	<p>古き良き時代の。</p>
遠藤町長	<p>色々今意見を頂きましたけれども。それでは先に進みたいと思いますので、引き続き説明を宜しくお願いします。</p>
庄野教育長	<p>5 点目になります。学校と地域の連携協働の推進ということで、今、全国的にコミュニティスクールの導入がかなり進んできているという状況です。児童生徒や学校が抱える課題について、保護者や地域社会が一緒に取り組んで、地域全体で学校を支える仕組み、コミュニティスクールがやり方にもよりますけれども、成果を上げているところも多いってことであります。現在、平取町では、すべての小中学校でコミュニティスクールを入れているところです。平取高校、道立高校も、毎年順番に一定数ずつ、コミュニティスクールを導入しているということで、平取高校も、昨年からコミュニティスクールを導入し、成果を上げているというようなところです。平取町では、以前より、多くの地域の学校は、地域の住民の方が非常に関わって積極的に協力してきたっていうのは状況があるのですが、人が変わっても変わらないシステムとして、先生方が異動しても変わらないシステムとして、平取町の子供たちの望ましい成長に寄与するための、CSを取り入れてっていうことでありますけれども、まだなかなか理解してもらえない部分もあつたりするので今後も一層、広報やCS便りを通して、町民への理解を図っていきたいと</p>

いうこととございます。資料の別添 6 の方に、各学校また地域学校協働本部の活動等を載せてあるところとございます。先ほど、小林さんの方からも話があったのですが、プールの手伝いってということで、平取小学校はかなりの分野で、地域の方が入って、お手伝いしてということを行っております。ただ、学校の捉えとして、先生方の手伝いみたいな感じでとらえられている部分があったりするところもあるのですよね。本旨は、子供たちのために、先生達が、手薄なところを補いましょうとか、そういうことで始めるのですけども、テストの点数つけだとか、そんなことまでってということになると、それはちょっと違うのじゃないのみたいなこともあるので、その辺も理解してもらいながらということと、やっているとあります。なかなか以前は、学校に地域の方が入ってこられると困るってというようなこともあったのですけれども、今だんだんそういう部分では、地域にお願いして、やってもらうところはやってもらうというような形の考えが、大分浸透してきているというふうに思っております。今、先生方も非常に多忙ということになっていきますので、今後もお一層、そういう形で、地域の子供は地域で育てるという理念のもと、活動を活性化していきたいというふうに思っております。コミニティースクールの部分については、以上になります。

次に、6 番目の平取高等学校の、存続についてということで、公立高等学校適正配置計画についてということで、先日、町長も一緒に会議に出させていただいて、道教委の方針だとか、そういう部分について知っていただいたというか、どういう感じかっていうのを、見てもらったというふうに思っております。今年、平取高校入学者 11 名ということで、地域連携特例校の再編、地元進学率が高かったり、道教委の方針に沿った、いろんな学級パターンをやっている場合については、検討していきましようということとありますが、穂別高校が先日、2 年連続 10 名を割ったということで、募集停止というような形で出てきていることで、教育委員会としても、どこまで道教委の方の話に乗って行っていいものなのかっていうのもあって、いきなり統合、募集停止になりますってということもあり得ることなので、それを含めて、昨年の方の第 2 回の会議の時にも話しましたが、平取高校存続のための地域としてできることを、どのような形でやっていくか。もちろん高校と連携しながらという形になりますけれども、それを進めていきたいというふうに思っております。令和 8 年から 11 年において日高学区では、4 年間で 69 名の中卒者の減が見込まれております。高校の学級数にすると、1 から 2 学級の減に相当するということで、今後、学区全体で配置のあり方を検討する必要がある

	<p>るっていう、形になっております。このことから、生徒の確保に向けて平取高校や高校の振興支援協議会、これは今までの団体の名前ですけども、そういうところと連携しながら対応していきたいというふうに考えているところです。以上です。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>はい。それでは今、5番、6番について、説明して頂きましたけれども、何か、ありませんか。</p>
<p>庄野教育長</p>	<p>高校のコミュニティスクールが、非常にうまく動いている。委員の人選も、うまく出しているし、また、その人たちが、一生懸命どういうことができるかっていうのを、考えてくれてるんですけども、高校が受け入れしながらやっているという事で。去年も熊谷さんが、国際交流みたいな形の話をしたりだとか、家庭科の授業に行つて話したりだとか、受け入れが非常にスムーズにやっているし、高校の先生方も、インターシップの関係で、高校生が行くところの調整をしてもらったりだとか。いい関係でできている。小・中学校も、平取小学校はかなり上手くいっていますけれども、なかなか実際に何やるかっていう動き出しが、コロナの関係もあつたりしたのですけども、うまくいってないところもあるということで、平取高校や平取小学校を見本にしながら、進めていきたいというふうに思っております。</p>
<p>遠藤町長</p>	<p>高校の存続について、先日、教育長と一緒に、この会議にも出させて頂きましたし、年度当初ですね、執行方針の中にも明記させて頂いておりますけど、やはり、今現時点では、平取高校を、やっぱり存続させて行かなければならないという考えでおりまして、実態を見れば本当に厳しいところあるのですけども。今までは、ちょっと教育委員会主というようなところもありましたけれども、何とか存続のための努力を、町長部局として、いろいろ関わりをもっと深くして、高校の存続のために、ソフト的なものと、それから存続のためのハード的な施設整備等が必要であれば、そういうところも積極的に考えていきたいなというふうに思っております。今ちょっと以前も高校存続のための、協議会みたいなあつたのですけども、より強く、存続のために考えたり、動けるような組織を、今、検討中でありまして。早急にちょっと動かすような段取りで、町長部局としては、まちづくり課が主体となって高校と連絡をとりながら、やらせてもらいたいなと思っております。先月、校長、教頭にも役場に来ていただいて、意見交換等もさせて頂いたというのあつて、同じような地域連携校の境遇にある自治体の首長とも、いろいろとお話をさせて頂いたということもあり、高校がなくなるっていうことの、もう既になくなったという所もあるのですけども、地域</p>

	<p>の疲弊みたいなのが非常に大きいと、それはもう口をそろえて、そういう首長さん達もいるので、子供たちにとって、その教育の環境はどうあるべきかということも当然なのですが、やっぱり地域として、それを失うことの大きさというのは、そういう存在が大きいのだというようなことを、地域で共有できることがまず大事だなというふうに思っております。高校の存続は、我々は関係ないよというようなところも無きにしても非ずかなと思いますので、もっともっと地域の課題として問題として、皆さんが考えてもらえるような、環境づくりといいますか、そのような事も含めて、いろいろとやっていきたいというふうに思っております。まあ、今後ですね、いろいろ町長部局ですので、なかなか教育環境のことは疎いところもありますので、今後、委員の皆様とかですとか、特に高校との連携といいますか、高校の先生方の考えとか、密にやりとりできるような環境づくりを、まずやっていきたいと考えております。合わせて、道教委には令和7年でバツってやられるのも困るので、その努力をもうちょっと弾力的に受けて欲しいということは、常に要望として挙げていますので。道教委は、分かった分かったと、本当に分かったかは分からないが、そういう対応をしてくれているので、バズっては行かないということで、言ってもらっているので、そういった方向に向けて、是非、進んで頂ければと思います。</p>
遠藤町長 和田教育委員	<p>その他、5番6番でありますか？</p> <p>先日ですね、独居のところに、行く用事がありまして、お話を聞かせてもらって、何か心配事ありませんかと聞いたところ、スマホの使い方がちょっとわからないので教えてくれってということで、スマホを見てみたら私も分からなかったのですよ。その時にちょうど、自転車で通った高校生がいたので、声を掛けて、ちょっとおばあさんの携帯の音が鳴らないんだと伝えたら、高校生が、マナーモードにしていたのが分かったのですよね。高校生、それで喜んで帰ったのですよね。もう僕だから、例えば、土日に高校生のスマホ教室みたいな、お年寄りの役に立つということを教えてあげる。こういうのも必要かなっていうふうにも、独居のところを回っていて思いました。よく言われるのは、スマホの使い方が良く分からないっていうのはよくあるのですよね。そういうのを、若い人が、お年寄りに教えてあげるっていうことが、お年寄りの役に立つて教えてあげる、こういうのも必要かなっていうふうにも、感じました。お年寄りに教えてあげるっていうことも一つ、自分がお年寄りのために役に立ったということが一つになるのかなというふうにも思いました。</p>
庄野教育長	<p>高校生もそういう役割ってうか、そういう、地域に自分たちがしたこ</p>

遠藤町長	<p>とが有益になっているのだからというのがあると、有用感だとか達成感だとか、そういうのが出てくるのではというふうには思いますよね。</p> <p>今、まちづくり課でやっている、協働のまちづくりで、高校生が去年からやってもらっている高校のホームページ作り。一生懸命やってくれて、中間報告をやってくれたのですが、本当に飲食店の取材とかしてもらって生の言葉を聞いてもらって。私はフェイスブックはやっているのですがすけれども、フェイスブックは古いので、インスタグラムじゃなきゃ駄目だということですよ。だから、そういうところも高校生とのやりとりで、学ぶところもあるのかなと思いました。</p>
庄野教育長	<p>今年、教育表彰で平高の生徒、インスタグラムの写真が出ていて、最高賞取ったということで、町からも表彰されたという事で、凄く喜んでいたのでよね。そういうのも、一番思うのは、道新の日高版で、静内農業だとか、浦河だとか、結構、富川も新聞に載るのですが、平取高校も一生懸命いろんなことやっているけど掲載されるのが、なかなかないってということもあって、そういう何か情報発信あれば、やっぱり子ども達もやる気になるというか、そういう気が出るのではというふうに思うので。毎日のように、静内農業とか出ているので。</p>
遠藤町長	<p>すずらん鑑賞会にも、すずらん配りにボランティア部が来てくれていたのだよね。本当に、慣れた感じで接客とかやってくれて、凄いなって思いましたよ。</p>
庄野教育長	<p>7月に入って平高祭やっていて、子ども達見てきたけど、子供たち、本当に生き生きとやっているし、新しく来た校長も、ギター引いて歌うぐらいやって、非常に多芸な人で、子ども達に溶け込んで行くような感じの人なので、非常に今、良いチャンスかなというふうに感じています。</p>
遠藤町長	<p>その時に向けて、一緒に、その時に向けてお願いします。</p>
本間教育委員	<p>通うとか、そういうのが困難な生徒のために、寮っていうか、そんな大それた寮じゃなくてもいいから、ちょっとしたものがあればいつも思うのですよね。下宿までと言ったら、ちょっとあれなのだけど、何かないかなと思うのですよね。それがあれば少し遠い所から、少し呼び込めるかなと思ったりもして。平取出身で、どこか外に出ている人で、平取高校に入りたいな。でも住む所ないんだよなっていう人がいたら、そういった受け入れというか、そういうのがあればいいなあって思う時があるので。</p>
遠藤町長	<p>なんか既存の施設を利用してトライをしてみるというのも良いかもしれない。はい、その他ありますか。そしたら、7番から9番までお願いします。</p>

庄野教育長	7番からの生涯学習の推進、アイヌ文化の振興、文化財の保護活用についてはそれぞれ担当の課長の方から説明させていただきます。
平村生涯学習課長	生涯学習の推進についてですが、各年齢層に対応した学習機会の提供ということで小学生から高齢者まで各種講座や、交流事業など、事業の充実を図っていきたいと思っております。公民館活動の充実についてですが、各種文化講座、高齢者大学、各地区の文化財など、交流事業を充実させていきたいと思っております。町民劇場についてですが、隔年実施となっております、令和3年度につきましては、劇団パトスパックによる「永久の愛」を公演しております。今年度については事業を隔年ですので、休止となりますが、次年度の開催ということで、予定しております。社会体育活動の推進についてですが、各年代に合わせ健康づくりなどを目的に、運動する機会を提供することと、また各種スポーツ団体の指導者の研修会などを開催したいと思っております。図書館活動の推進についてですが、移動図書館や出張図書館などの定期的な活動と、ともに読み聞かせや、乳児に絵本を配布するブックスタートなどを行い、またアイヌ施策交付金を使ったアイヌ関連史書の充実を、図って参りたいと思っております。国際交流事業についてですが、今年度は、コロナの影響等により2年間実施しておりませんが、次年度から交付金事業を活用しスケジュールなどを調整し、実施していきたいと思っております。以上です。
庄野教育長	生涯学習の推進、文化振興、文化財の保護と活用の大部分については、この後の項目の報告事項の令和4年度生涯学習関連事業と同じような形になりますので、その中でご説明いたします。
長田文化財課長	17ページまでが、文化財所管事業の内容になります。これ全部説明すると時間がかかりますので、かいつまんでということで説明させていただきます。歴史館と博物館の両館の主要事業として、特別展がございます。10月の初めから2ヶ月間、例年通り行っていく予定となっております。今年度につきましては、博物館の特別展につきましては、近代の学校とアイヌ民族と、歴史館の特別展は、沙流川流域の鳥ということで、それぞれテーマを設定しまして、積極的な普及活動を進めていくということで、今準備中でございます。そのほかにも、これもあとで話題になるかもしれませんが、アイヌ政策推進交付金事業としまして、イギリス等のジャパンハウス派遣事業、という内容で計画中であります。令和4年度中の追加申請を通した採択を目指していくということで令和5年度に行われる予定のジャパンハウスのアイヌ展についてしっかりと打ち合わせと準備を進めていきたく考えています。その他、

重要有形民俗文化財のアイヌ民具の高解像度のデジタル化の撮影ですとか、夏休みを主としたアイヌ文様の彫刻体験事業、こういったものも着実に進めていきたいと考えております。以上です。

続きまして、9番目の文化財の保護と活用ということで3項目ございます。まず始めに重要文化的景観の整備計画ということですが、令和4年度中に平取町文化的景観整備活用計画としてまとめていく予定です。合わせて、4次選定に向けた申し出の準備作業を行い、実際の申し出を令和5年度中に行いたいと考えています。それをもって、平取町の重要文化的景観の拡充にかかる施策の一区切りにしたいということで計画中です。4次選定で追加申出する範囲は現在検討中で、今年の10月ぐらいを目途に範囲の案を保全委員会に提示していく予定となっております。続きまして、文化財審議会における提言についてです。令和3年度の平取町文化財審議会で、令和4年度中の文化財指定等を目指していくための検討を行っています。一つ目が、無形民族文化財「アットゥシ」の保存技術ということで、保持団体の指定を目指していくための取り組みを行っている最中です。二つ目が、同じく無形民俗文化財「イタ」の保存技術ということで、同じく保持団体指定に向けた取り組みを進めています。三つ目が、これも同じく無形民俗文化財「ユカラ・カムユカラ・ウウェペケレ」ということで保持者指定を目指した取り組みを進めていきます。アットゥシとイタの保存技術につきましては、同時並行で有形民俗文化財のアットゥシとイタも検討対象としていきたいと考えています。アットゥシとイタは優先課題ではありますが、アイヌ口承文芸もなるべく急いで進めていきたいと考えております。続きまして三つ目、開拓財産の保存整理と活用です。過日、開拓財産展示施設の案内チラシを作成し、7月22日のまちだよりに折り込んで、平取町内全戸に配布しました。こうした取り組みを通して町民の来館を促しながら、開館情報を周知していきたいと考えています。基本的に月、水、金曜日の午前中に開館しているのですが、この開館日時以外の対応も電話での予約を頂いたうえで、博物館での勤務調整をしながら、対応していきたいと考えています。また、今年度の博物館特別展は「近代の学校とアイヌ民族」をテーマに行う予定となっております。12月4日にこの特別展が終わる予定ですので、その後に内容の一部を旧荷負小学校の学校展示にも反映して、アイヌ民族やアイヌ文化の内容をしっかりと加えていくようなテコ入れをしたいと考えております。以上です。

遠藤町長

今、説明を頂きましたけれども、宜しいですか。

それではですね、次に報告事項ということで、まず町内小中学校の現況

庄野教育長	<p>について、資料 2 で報告願います。</p> <p>資料 2 の方を見ていただいて、町内の各小中学校の児童生徒数、特別支援学級等を、また、教職員の数、町費負担職員の数等が載っているということでございます。令和 4 年度 6 月 8 日現在で児童生徒の数が 348 っ ていうようなことになっております。教職員等の数については 79、町費負担職員については 42 となっております。これについては資料を見ていただければというふうに思います。</p>
遠藤町長	<p>よろしいですか。それでは次、令和 4 年度の学校経営計画についてご説明をお願い致します。</p>
坂本指導主事	<p>令和 4 年度の各学校の教育目標経営方針、重点目標等でございますけれども、それぞれの学校、新学習指導要領の趣旨に基づいて、主体的対話的で深い学び、また個別最適な学びを位置付けた経営計画となっております。それから、現在の教育課題に対応するために、学校教育目標については、一昨年度は振内小学校、昨年度は紫雲古津、平取小学校、平取中学校、そして今年度は二風谷小学校が新しく改定をする予定になっておりますので、あとはご覧になっていただければと思います。以上です。</p>
遠藤町長	<p>今、説明頂きましたけれども、何か、ありますか。</p> <p>それでは、次に、生涯学習関連事業について、説明をお願いします。</p>
庄野教育長	<p>生涯学習関連事業については、先ほど説明した中身のものなので、見ていただければと思います。</p>
遠藤町長	<p>わかりました。はい。それでは、④のこちら側からの報告になりますけれども、町内保育所の運営等について、資料 4 で説明いたします。</p>
松島保健福祉課長	<p>資料 4 は 32 ページになります。32 ページをご覧ください。各保育施設の入所児童数の見込みとなっております。ご覧の通り、減少傾向にあるということから、町が設置しています、へき地保育所は、紫雲古津と荷菜と 2 ヶ所ありますけれども、条例規則により、10 名未満の保育所は原則開設しないと定めているところから、紫雲古津、荷菜のへき地保育所については、10 名を下回るという推計となっておりますので、今後のあり方を検討するとして、5 月に保護者説明会と意向調査を行っているところ です。意向調査ではですね、他の保育所に移ることが可能かという問いも設けまして、「仕方がないので移れる」が 9 名、「移りたくない」が 6 名の結果でありました。また、5 月と 7 月に、子ども子育て会議、2 回を開催しまして、閉所の時期については、令和 5 年度末ということで、それまでの間に、保護者の不安を取り除く、不安の解消ですとか、自治会の説明を行っていくということとなっております。子ども子育て会議は、本間さんが会長で、和田さんも委員として会議に参加していただい</p>

て、審議をして頂いているところでございます。8月4日に荷葉、5日に紫雲古津の保護者の説明会を予定しております。ここで初めて、閉所時期を保護者に示しまして、保護者の皆様のご意見をいただくということで進める予定であります。続いて、33ページになります。パチラー保育園の整備事業ということで、これについては、6月10日に開催された産業厚生常任委員会へ提出した資料と同じものになっております。スケジュールからですが、34ページをご覧いただきたいと思います。事業の実施主体は、社会福祉法人聖光会北海道福祉会となっております。先週、7月22日に設計事務所の方とスケジュールの打ち合わせをしたところですが、本体工事の着工が9月中旬以降ということで、当初の予定より約1ヶ月半の遅れとなっており、令和5年4月の開園の予定は変わらない状況で、非常にタイトなスケジュールになっているのかなというふうに思っております。工事着工前には、近隣、町内会の工事説明会の開催を予定していると聞いております。続いて35ページになります。配置計画案をご覧ください。ちょっと字がかなり小さいのですが、本日、ホッチキス留めでA4の2枚ものの一番後ろのページに平面図を載せております。これもちょっと小さいのですが、真ん中に遊戯室、職員室を配置して、それを囲むように、0歳から5歳の保育室を配置するというふうな予定となっております。これが今一番、新しい図面となっております。続いて36ページになります。建設工事期間中の工事計画案ということになります。工事車両については、国保病院と歯科診療所間の道路を運行しないという予定で、大型車両の運行期間中は、警備員を配置する計画となっております。33ページの方に戻っていただきたいと思いますが、4番、町の予算になりますけれども、4年度の予算で法人に対する補助金、2億8721万7000円を計上しております。①、②については、国からの交付金で、この交付金については、町が申請を行い、法人へトンネル補助となっております。町の補助金、1億5000万円については、過疎債を充当しまして、実質町負担額は4500万円となっております。現時点での概算工事費は、4億230万で内訳の記載の通りですが、本体工事の入札がまだ終わっていないため、本体工事費は確定しておりません。法人の負担額は、1億1500万の見込みとなっております。本日お配りしたA4ホチキス留めについては、表紙が立面図、2ページ目が建設予定地を、赤丸で示したものと、全体配置図、最後のページは平面図ということでご覧いただければと思います。簡単ですが、説明を終わりたいと思います。

遠藤町長

はい。今、町内の特にへき地保育所の今後の状況ですとか、併せてパチ

庄野教育長	ラー保育園の今年度の整備事業ということで、お知らせをさせていただきますけれども、何か内容等についてご質問等ある方はいますか。
松島保健福祉課長	松島課長、5月、6月に保護者の説明会をやって、8月初めは2回目の保護者さんで良いのか？地域への説明会はいつ頃か？
庄野教育長	地域への説明会はまだ1回もやっていません。 うちも統合の関係の話を振内中学校のPTAの方に、ほとんど出ているのだけど、話に行ったときに、説明する時期が遅いのではという意見がやっぱり出でくる。ただ教育委員会としては、今、振内中学校の統合に関連する学年がない状況で、その前に説明していても、みんな卒業してしまっていないなくなり、実際に統合する時には、説明を受けた人が誰もいないという部分もあるし、町の施策として新規就農を入れたりだとか、そういう部分で、生徒数だとか児童数の増減があったりするってことなので、ギリギリまで待って、それでということもあってそういう説明しているのと、人によっては、地域に説明するのが最初じゃないかって言う人もいます。委員会等にとっては、やっぱり実際に通っている保護者だとかに説明するのが第1で、その後に地域に説明っていうふうに思っているのですが、人によっては、地域の説明が遅すぎるのではないかみたいなことを言って、どれだけ早く説明すれば間に合うのっていうこともあるのですが、そういう部分があるので、対応が大変かなと思うんだけど。
松島保健福祉課長	ありがとうございます。へき地保育所には所長さんがおられて、所長さんには閉所の時期はお伝えしております。両所長とも、概ね児童数の減少を見ると、理解できるねってことでありました。あとは、地域の説明になってくるかなと思いますけども、できれば保護者の理解がある程度得られた中で、保護者については概ね理解をいただいているという、説明を地域にしたいなと思っているのですが、保護者の理解が、どこまで得られるかっていうところで、8月の保護者説明会で、どのような意見いただけるのかなっていうところになって、そこから、また地域の自治会の方の説明に入る予定で、今考えています。
遠藤町長	前段、アンケートも、親御さんの全員から取っていますよね。やっぱり人数は少ないけど、こういうところが良いよとか、バチラーに移行したら、どういうことが心配だとか、具体的な意見もいただいているので、その辺を、どうクリアできるかっていうことが重要。ここで閉所しますので移ってねっていうのでは、なかなか理解も得られないかと思うので、町としても、その辺どうできるかというのが、これからのやりと

和田教育委員	<p>りの大事なところかなと。今、働いている方の今後の処遇とか、そういうことも細かく言えばあるかなと。それを一つ一つクリアしながら、と思っておりますので。その他はどうですか。はい。</p>
遠藤町長	<p>先日、バチラーの父兄の方から、お話を聞かせてもらった一つに、公民館の後ろのバイオマスのところから、煙がすごく出ていて、それで、新しい園庭で遊ばせるのにちょっと心配だっという話があったのですよね。かなり煙が出ているらしくて、常時ではないのだと思うのですが、出るときにはすごく出ていて、それで園児たちが園庭で遊ぶ時には心配なんだっというお話がちょっとあったので、お知らせしておきます。</p>
津川総務課長	<p>はい。わかりました。その稼働の時期で、ちょっとやっぱり目立つような、時もあるのですよね。成分とか、そこは心配ないんですけども、見た目とか、それを見るとやっぱり心配なのも分かるので。ちょっとうちの現場でも、またいろいろお話聞かせていただいて。その他よろしいですか。次、5の新型コロナウイルスの感染対策の臨時交付金事業についてということで、説明をお願いします。</p>
遠藤町長	<p>はい。それでは資料5ということで、37ページ目になります。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金については、令和2年度から、何回も出されておまして、今年度につきましても、令和3年の国の繰越金を使いまして実施をしているところです。令和3年度の補正予算分ということで、当初9168万7000円がうちの方に交付されまして、そのうち6283万6000円を、令和4年度の当初予算に組んで、ここに書いてあります1番から34番までの事業に計上します。主にコロナ対策ということで、施設整備費だとか機器の購入だとか、エアコンだとか空調の整備ということに使っています。そのほかに、経済対策ということで、職員住宅だとか、教職員住宅等の解体事業だとか、そういうのにも充てているということで、その他電気自動車の購入とか、そういうのにも載せているということで、概ね6700万円程度の事業費を組んで、今やっている最中です。それで、今年度、さらにですね、5000万円ほど、追加交付されるということで、全部で残り8000万ぐらいの事業につきまして、今9月の補正で、また順次、いろんな事業を進めていくということで今やっております。細かい事業の中身については見ていただくということでちょっとご了承いただければなと思いますので、もし皆様方の方から、こういう事業どうなっているってことでご質問だとかご要望があれば、ちょっとお聞きできればなと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>
遠藤町長	<p>はい。内容的にどうですか。</p>

庄野教育長	これ最後に言った 8000 万程度、9 月議会で補正っていうのは、今取りまとめしたやつでそれぐらい行くの？それ以外にっていうこと？
津川総務課長	この間取りまとめした分で、ほぼほぼ行くのですが、議会の方でいろいろ意見あってですね、燃料高騰の関係で、運送業界の補助ということでちょっと検討したのですが、その方法だとか、今ちょっと、見直してくれっていう意見もあるものですから、それらも含めて、ちょっと今、改めて、内容を見直してやっていきたいなということで、今回は農家の関係だとかにも出すっていうこともありますので、農協だとかに色々説明しながら、農業者の方でも、産業課の方で確か、今後対応していくってことになっていると思います。
遠藤町長	はい。その他、ありますか？それでは 6 番目のアイヌ施策臨時交付金事業について、説明をお願いします。
津川総務課長	はい。資料 6 ということで 40 ページ目になります。これにつきましては、令和 4 年度の交付金事業の一覧ということで、教育委員の皆さんには多分、教育関係については、教育委員会の方で報告されているのかなと思いますけれども、1 から 22 までの事業ということで、今年度も計画されております。詳しい内容については、私担当ではないところもあるものですから、ちょっとわからないのですが、令和元年から、この交付金始まりまして、今年で 4 年目っていうことになって、一応、1 回目の計画としては、来年度で 1 回この計画は終了して、また 6 年度から新たな計画っていう形になると思うのですが、その中で今 4 年目の事業ということで、このような事業になっております。大きい事業としましては、ずっとやっておりますイオルの再生事業だとか、イオル文化交流センターの建設事業の外構工事等を、今年度、今やっている最中でございます。それから 21 世紀アイヌ文化伝承の森推進事業、それから教育委員会関係では、平取町学習塾運営事業ということで、交付金の中では大きい金額の事業を実施しております。これらについては、うまく活用しながら地域の雇用の創出だとか、子供たちのためっていう、それから観光振興ということで活用しているっていう状況でございますので内容について、もしわからないようなことがあれば、前担当の課長もおりますので、聞いていただければと思います。
遠藤町長	なにかありませんか。
本間教育委員	これちなみに、令和元年度から 5 年度までの交付金総予算ってどのぐらいいくの？
松島保健福祉課長	当初 5 ヶ年で 27 億が、いろいろ国の方の精査とかを受けて 20 億ぐらいか 19 億だったかなと思います。すいません。はっきり答えられなくて。

本間教育委員	有効活用できれば、こんないい基金ないと思います。幅広く町民とか、所属団体とかっていう要望とか要求とかっていうことで、やっていたんですか？
松島保健福祉課長	当初の計画の策定は、遠藤町長が大きく関わって、非常にタイトなスケジュールで、5カ年の事業を取りまとめたというふうに聞いています。当然、アイヌ協会ですとか、関係団体のヒアリング等要望は、反映させている計画になっているというふうに認識しています。
本間教育委員	積み上げての予算なのか、これだけ予算あげるから、あんた方で使いなさいというものではないでしょうか？
松島保健福祉課長	毎年の申請ですね。
遠藤町長	今、令和5年まで第1期の5カ年計画なのですが、やっぱり制度的にも、国も新しいというなこともあって、提出まで、期間が非常にきつかったというようなこともあって、とにかく持っていける予算あるものは、盛り込もうよみたいなことがあったので。反省としては、やっぱり、もっともっと、主に関わるアイヌの方々のいろんな意見も、さらに聞くべきところがあったかなと思いますので、そんなのを含めて次、第二期、令和6年からもきつとあると思いますので、その辺、いろいろ今までやったものの検証と、次どうあるべきかみたいなのは、また改めて考えなきゃならないところもあるので。交付金そのものは、アイヌの文化の振興プラス、それが引いては、地域振興に繋がるようなものっていうことをやっぱり強く言われているとこなんですよね。国の法律として国の制度として、あんまり特定の方だけに恩恵のあるものでなくて、もっともっと幅広くっていうね、本当は上げているところもあったんですけど、大分、ダメダメと言われたところもあって、現実はまだちょっとあった。本当に8割の補助率ですけども、残り2割に有利な起債なんかを充当しますと、93%補助っていうぐらいになってくるので、本当に財源の確保っていう意味では非常にありがたい。事業ではあるのですよね。
本間教育委員	2期に向けて、今、町長言われるように、色々な人の参考意見を聞いたりとか、検証し直したりとか、また、大体同じ規模ぐらいの交付金が来る予定だと思うのですがけれども、情勢によっては変わるだろうけど。それでも有効な資金なので、うまく使いたいですよね。
遠藤町長	もう、うちとしても経常的な活動というか、例えばイオル再生だとか、21世紀の森とか、これほとんど人件費なのですよね。だから、そういうのがブツッと切られるとなると、これ本当にどうしようかみたいなことになっちゃうので、いろんなことを想定しながら、やらなきゃところも

津川総務課長	<p>あるなと思う。その他どうですか。よろしいですか。はい。それでは、その他ということ、次回の開催について、宜しくお願いします。</p> <p>次回開催についてということで、例年この総合会議については、年2回ほど、開催しております、例年11月か12月にさせていただいておりますので、今年も2回目の開催時期は、そのぐらいの時期でよろしいでしょうか。12月ぐらいになると総合計画の方も大分固まってくるのかなと思いますので、12月ぐらいに合わせてと考えていますけども、いかがでしょうか。</p>
遠藤町長	<p>どうですか。良いですか。では、その辺りでまた、予定させていただきますので、宜しくお願いします。</p> <p>それではその他ということ、何か皆さんの方から、ございましたら、うちの方はないですか。教育委員会、よろしいですか。いいですか。</p>
遠藤町長	<p>それではこれで、第1回目の総務教育会議を閉じさせていただきますけども、今日の議題に基づきまして、いろいろとまたご意見等いただきまして、本当に教育現場で直面する課題っていうのを改めてこう感じたところもございますので、今後やっぱり委員会と町側との連携というのは、これ一つの重要なポイントかなと思っておりますので、その辺肝に銘じましてですね、進めさせていただきたいとますので、今後とも宜しくお願いいたします。今日どうもありがとうございました。</p>

